

所信

一般社団法人海部津島青年会議所

2026 年度理事長 加藤 大晴

<はじめに>

私が考える青年会議所の使命とは、仲間とともに自己を磨くことで次世代のリーダーを育み、地域や社会により良い変化を起こしていくことである。

私は青年会議所に入会するにあたり特段の大義や明確な目的があったわけではない。ただ、父が津島青年会議所に所属していたご縁から入会したというのが事実であるし、当初は「誰かが行動しなくても、住み暮らす地域はおのずと住みやすくなっていくものだ」と、他人事のように思っていた。

確かに、まちは時代の流れや人々の生活の変化によって自然に発展していく側面はある。だが一方で、放っておけば衰退し、失われてしまう文化やつながりがあり、誰かが行動することで新しい価値が生まれることがある。まちのために、仲間とともにアクションを起こす。その想いと行動が、まちを、そして自身の人生をも豊かにしていくのだと、いま確信している。

青年会議所は 1910 年、アメリカ・セントルイスにおいて、若きビジネスマンのリーダー育成と地域参画を目的に誕生した。当初は経済色の強い団体であったが、その理念は国境を越えて広がり、日本では 1949 年、戦後復興への強い想いと民主主義教育の担い手となるべく運動が始まった。そして 1963 年、日本で 243 番目の青年会議所として津島青年会議所が創立された。その設立趣意書には、青年らしい情熱と発想をもって自らを磨き、その力を社会に還元するという崇高な想いが込められている。

その創始の想いを脈々と受け継ぎ、熱意をもって行動し地域を変革してこられた先輩諸氏、常にご協力をいただいている行政や関係団体の皆様に対し、心からの敬意と感謝を表する。そして、現役の正会員は先人が積み重ねてきた歴史と崇高な理念を受け継ぎ、地域をより良くするために全力で行動を続けなければならない。

Be Better

～まちを 仲間を つねにより良く～

冒頭にも述べたように、青年会議所の使命は、人づくりを通じたまちづくりであると私は考える。青年会議所の活動を通じて得られる学びは自己の成長にとどまらず、次世代を担うリーダーを育てていく。これは行政にも市民にも果たせない、青年会議所ならではの存在意義である。

入会の動機がどうであれ、この組織でいかに成長し、いかに社会へ還元するかこそが青年会議所の本質である。青年会議所は、目的を実現するための「道具」であり、仲間とともに未来を切り拓く「装置」である。青年会議所を使いこなし、仲間と力を合わせて、地域の明日を築いていきたい。

しかしながら、現在の海部津島青年会議所は、その本来の使命を十分に果たしていない。とりわけ、自己研鑽の機能が弱まりつつあることは深刻な課題である。本来ならば、地域課題を追究し、仲間とともに課題の解決方法を考え構築し実行する。その過程における挑戦と失敗を通じて学び、成長を実感できる場であるはずが、近年は事業の運営や形式的な活動に迫われ、会員一人ひとりが「磨かれている」と実感できる機会が少なくなっている。

その背景には、まずメンバー数の減少がある。仲間が少なくなれば活動の担い手が限られ、一人あたりの負担が増してしまう。さらに、与えられた役割をこなすことに精一杯となり、青年会議所活動の醍醐味である「生々しい人間関係」を築く時間すらもてないメンバーも少なくない。互いの価値観をぶつけ合い、時に摩擦を生むからこそ人は磨かれる。しかし、いまの我われは、その「人間的な成長の場」を十分に確保できていないのが現状である。

だからこそ、我われは改めて「人を磨く場」としての青年会議所の原点を取り戻さなければならない。そのためには、やりたいこととやらなければならないことを切り分け、学びを深める余裕を確保することが重要である。結果のみに目を奪われるのではなく、プロセスにおける学びと挑戦を大切にする姿勢をもたなければならない。失敗を恐れず、そこから学びを引き出す風土へと立ち返ることで、会員一人ひとりが確かな成長を実感できるはずだ。

さらに、この少数精鋭の現状を受け止めつつも、だからこそ可能な濃密な議論と深い人間関係の構築に力を注がなければならない。与えられた役割をこなすだけでなく、自ら考え、提案し、議論し合う場を増やすことによって、会員同士が互いに磨き合いより良くなっていく。

<まちの魅力発信>

海部津島青年会議所は、行政の枠を越え、広域的に活動を展開してきた。まさに広域の視点をもつからこそ、我われの存在意義は発揮されるのである。活動エリアである4市2町1村には、それぞれ異なる特色があるが、共通の課題として、地域経済や地域社会の活性化、地域の魅力発信、交流人口や滞在時間の増加が横たわっている。

尾張津島天王祭、七宝焼き、金魚の養殖、蓮根や赤紫蘇といった農産、これらは全国に誇れる文化や産業資源である。しかし、その価値はまだ国の内外に十分に伝わっていないのが現実である。

そこで、我われが担うべき使命は「魅力の再発見」と「体験化」である。伝統的な祭礼はもちろん、私たちが日常の中で見過ごしがちな風景や営みも、外から訪れる人々にとっては新鮮で特別な価値となり得る。農家での田植えや収穫、金魚養殖への参加、古民家で味わう家庭料理といった日常の一場面は、訪れる人にとって忘れられない体験となるだろう。

こうした日常を「体験」として磨き上げることで、海部津島を訪れる人に魅力が伝わるのはもちろんのこと、市民自身も誇りと愛着を深められる魅力を創出し、地域経済と地域社会のさらなる活性化へとつなげていこう。

<組織の土台を固める>

2026年度は総務委員会を設置する。総務の本質とは、組織全体を横断的に支え、その基盤を強固にすることである。諸会議の運営、各種規程やルールの整備、情報や記録の管理、渉外や対外広報—いずれも単なる事務処理ではなく、組織の透明性と公正性を担保し、信頼性を形づくる根幹である。総務は全体を俯瞰し、会議体や各委員会、メンバーが最大限に力を発揮できる体制を整える使命を担っている。

さらに、本年度の総務委員会は「わんぱく相撲」を主管する。20回を超える開催の歴史を重ね、毎年140名を超える児童が参加するこの継続事業は、地域から強く必要とされている運動である。子どもたちが礼節を学び、挑戦する心を養い、伝統文化を体感するこの場は、人づくりとまちづくりを直結させる、まさに青年会議所ならではの活動である。我われはその意義を胸に刻み、確実な運営と着実な開催をもって、地域の信頼に応えていく。

<組織拡大に持続性を>

青年会議所の魅力は、メンバーが一方向的に語るだけでは成立しない。相手に理解され、共感されて初めて意味をもつものである。青年会議所の価値を「こちらの言葉」で押しつけるのではなく、相手の立場や関心に寄り添い、「自分にとっても必要だ」と実感してもらうことが求められる。地域をより良くする活動、人とのつながり、世界とのつながり、そして自己成長の機会。これらは我われにとっては当然の魅力であるが、相手にとっては未知のものである。だからこそ、相手のニーズや想いに呼応し、共感を伴った発信を重ねていかねばならない。

また、2025年度から始めている会員拡大の「仕組化」を、2026年度も継続して推し進めていく。拡大を「動員が得意な人」「話が上手な人」といった特定の個人に依存させず、組織全体で取り組む仕組みを築くことが不可欠である。苦手な者は得意な者から学び、経験豊富な者は新

入会員に背中を見せる。その過程で、新たな力が芽生え、互いに学び合い、補い合う環境が生まれる。得意な者にとっても、スキルを他者に伝えることは視点を広げ、さらなる磨きをかける機会となる。

誰が担っても一定の成果が得られる仕組みを整えることにより、拡大活動の継続性が担保され、組織が次世代へと引き継がれていく。海部津島青年会議所の未来を切り拓く拡大運動をつくりあげよう。

<むすびに>

いま一度、私たちは自分たちが立っている足元をしっかりと見つめよう。置かれている環境の中でどれだけ学び、挑み、成長できるか。

そして、自分たちの周りを見渡そう。支え、協力してくれる行政や地域の方々、そして道を切り拓いてきた先輩方の存在がある。そのつながりに感謝しよう。

そのうえで、私たちは確かに 未来 を見据えよう。仲間とともに歩む勇気と情熱があれば、どんな困難も乗り越えられる。

メンバー一人ひとりが主体的に、多様な考えを取り入れながら行動し、多くの協力者を巻き込み、心躍る海部津島を創り上げよう。

基本方針

1. 行政区を超えた地域の魅力の国内外への発信—Beyond Borders 魅力の発信委員会
2. 組織力の基盤の再整備 —総務委員会
3. 持続可能な組織拡大の実践と体系化 —全員拡大デザイン会議